

# むきばんだ花だより

5月

2017.5.13

## 「遺跡楽し草笛吹くを習ひもし」 もと

### ◎クマノミズキ(熊野水木)、ミズキ科、ミズキ属

【クマノミズキとミズキの違い】

○葉の出方で「クマノミズキ」は、一箇所から左右に葉が出る「対生」であるのに対して「ミズキ」は互いに生じる「互生」となる。

○花期の違い「クマノミズキ」の花期は6~7月「ミズキ」より1か月ほど遅い。

○「クマノミズキ」の実は「ミズキ」よりやや小さい。

○枝の断面の形(姿)が異なる「ミズキ」は真ん丸「クマノミズキ」は崩れた円形、写真は、開花には少し早い様です。★撮影日:2017.5.13, ★撮影場所:公園駐車場横。



クマノミズキ(熊野水木)、ミズキ科、公園駐車場横、2017.5.13

### ◎エゴノキ(野茉莉, 畜墩果)、エゴノキ科、エゴノキ属

名前の由来:果皮が有毒でのを刺激してえぐくなるため。英名は、日本のスノーベル、(白色のベル状の花)○「エゴノキ」は、日本など東アジアが原産、落葉小高木で学名を付けたのは、ドイツ人の医師(博物学者)のシーボルトで、『日本植物誌』に日本を代表する美しい植物の一つであると紹介しているようです。主に種、挿し木で増えます。初夏に香りの良い花を多数咲かせ、「森のシヤンデリア」とも呼ばれています。

★別名・異名:ロクロギ、チシャノキ、イチシ(古名)

古名ではチサ(知佐)、チサノキ(知佐乃木)と呼ばれ『万葉集』には(老師)並びに(知佐)の名で詠まれています。漢字名で(野茉莉)の字が当てられていますこれはインドに自生するジャヤスミンのこどらしく、(畜墩果)は、本来オリーブの漢名だそうで、両者の良い香りを借用したのかもわかりません。付近の(エゴノキ)では、エゴノクビオトシブミのヨウラン(掃籠)も見られました。★撮影日:2017.5.13, ★撮影場所:洞ノ原地



エゴノキ(野茉莉, 畜墩果)、エゴノキ科、洞ノ原地、2017.5.13



エゴノキのヨウラン(掃籠)、洞ノ原地、2017.5.13、2016.8月号、花だより参照



キミノシロダモ(黄実のシロダモ「白簾」)シロダモ属、洞ノ原地区、2017.5.13



ヨトクサフジ、? ヒロコシサフジ、? 国道山崎道、熊野(宮内区)内ノエンス、2017.5.13

### ◎ツクバネウツギ(衝羽根空木)、スイカズラ科

ツクバネウツギ属、落葉低木、本州、四国、九州に分布。○名前の由来:木の姿がウツギに似ており、果実に残る5枚の顎片が、羽根突き(ツクバネ)に似ているため。

○花言葉:「長い友情」「謙虚」「謙譲」。★5月頃に白い花を咲かせる。顎は5つで果実になっても残る。顎は花時には緑色ですが、やがて紅紫色になるものが多い。「ウツギ」は茎の、中心部がつつろである意味ですが、本種の茎には穴がない。

★撮影日:2017.5.13, ★撮影場所:むきばんだ公園入口。

#### ★〜ウツギ(空木)について雑話〜

むきばんだ公園内に「ウツギ」の言葉が付く樹が何種類か有ります。本来の「ウツギ」とは、アジサイ科(ユキシタ科)で、名前の由来は幹が中空であることから、「ウツギ=空木」と名前が付いたと云われます。先ずウツギの言葉の付く樹種には、①「アジサイ科(ユキシタ科)」の「ウツギ」「バイカウツギ」「マルバウツギ」など、②「ドクウツギ科」の「ドクウツギ」③「スイカズラ科」の「ツクバネウツギ」「ハコネウツギ」「タニウツギ」など、④「フジウツギ科」の「フジウツギ」「コウジウツギ」など、⑤「ミツバウツギ科」の「ミツバウツギ」⑥「バラ科」の「コゴメウツギ」など。また、「アジサイ科(ユキシタ科)」の「ウツギ」を「ウノハナ」とも呼びます。これは「ウツギノハナ」の省略形と云う説と、卯月(旧暦4月)に咲くからとの説があります。他のウツギは、木の形が似るところから、○ウツギと云う名が付いたそうです。ということは、幹は中空で無いのかも知れませんがね!

終わりに「ドクウツギ」は、「イチロベゴロシ」と云う別名をもち、春に黄緑色の小さい花が咲き、豌豆くらいで熟すと紫黒色の、甘い汁を含む果実を付けます。この果実が有毒で、誤って食べると死ぬとか。食べた人が、死ぬ間際に言い残したとか?…○「ウツギ」の幹は釘釘に加工利用されています。〜ウツギ雑話の項、おわり〜



ツクバネウツギ(衝羽根空木)、スイカズラ科ツクバネウツギ属、公園入口、2017.5.13



ヘチマ科(ヒメトシサイ)イネ科(イネ科)の植物、熊野山崎道、2017.5.13、2017.3月号、花だより参照



シロクサ(シロクサ)の植物、熊野山崎道(イネ科)の植物、2017.5.13、花だより参照



ヤマアジサイ(山紫薔花)、アジサイ科アジサイ属、妻木山地区、2017.5.13



ニガナ(苦菜)、ニガナ属、洞ノ原地区、2017.5.13



カマツカ(鎌柄)バラ科カマツカ属、洞ノ原地区、2017.5.13

◎ムラサキサギゴケ(紫鷲苔)、ハエドクソウ科、

サギゴケ属、○新分類(APG III)で「ゴマノハグサ科」から「ハエドクソウ科」に移された。春咲の多年草で、走出枝(ランナー)を出して広がる。花は淡紫色~紅紫色の唇形、上唇は色が濃く、斜上~直立して2裂する。下唇には黄褐色の隆起した斑紋があり、棒状の毛が生える。茎、頸、花冠に毛や繊毛が生えるが、殆ど無いものもある。花が白色の物が稀にあり、「サギゴケ」と云う。花が淡紫色の「ムラサキゴケ」は春には「トキワハゼ」と間違えやすい。○別名:サギゴケ(鷲苔)、○分布は本州(東北以西・四国、九州、中国、台湾、など田の畔など、やや湿った場所に生育する。○名前の由来:「鷲のような形の花を映かせ、苔のように地面這う草。★撮影日:2017.5.13、

★撮影場所:むきばんだ公園駐車場



ムラサキサギゴケ(紫鷲苔)、ゴマノハグサ科サギゴケ属  
公園駐車場横、2017.5.13、

◎コバンソウ(小判草)イネ科、コバンソウ(ブリザ)属

【「ブリザ」は、ギリシャ語の「briza(ライムギ)」が語源です。】別名:タワラムギ(依表)・ゴウダソウ(合田草)~東京美術学校の合田教授がパリから種子を持ち帰ったことから。)○花言葉:素朴な心、興奮、熱心な議論、金満家、心を插さぶる★ヨーロッパ原産で耐寒性の一年草です。日本には明治初年に観賞用として渡来した。代表的な帰化植物の一つです。現在では至るところで大群落を見かけます。全株に粗毛が有り、5~6月頃茎の先端に1~2cmほどの楕円形で少し膨らんだ小穂を数個ぶら下げます。果実は薄緑色ですが熟すと黄金色に染まり、一見稲のように見えます。その後、黄褐色に変化します。雑草のイメージが強いのですが、最近では、小判が揺れているような独特な雰囲気好まれるのか、床の間に飾ったり、ドライフラワーに利用するため、花壇に多く栽培されています。また、同属には、小穂が小形の「ヒメコバンソウ(姫小判草)」があります。これは、成熟するとカラカラと音が出るので別名「スズカヤ(鈴萱)」と呼ばれます。



コバンソウ(小判草)、イネ科コバンソウ(ブリザ)属、洞ノ原地区、2017.5.13、



ウメガサン(梅笠苔)、ツツジ科ウメガサン属、公園入口、2017.5.13、「2016.6月号、花だより参照」



コバンソウ(小判草)、イネ科コバンソウ(ブリザ)属、洞ノ原地区、2017.5.13、



タネチノガスン(伝天子苔)、キク科ハシロガサ属、妻木山地区、2017.6.13、「2017.1月号花だより参照」



ウメガサン(梅笠苔)、マメ科ウメガスン属、妻木山地区、2017.5.13、



カスマグサ(カス間草)、マメ科ソラマメ属、妻木山地区、2017.5.13



ヤマウルシ(山漆)、ウルシ属、洞ノ原地区、2017.5.13、



イセタン(伊勢蓐、瘦根木)、モクセイ科、イボタノ木属、妻木山地区、2017.5.20、「2016.12月号、花だより左側の淡緑色の葉の木参照」

◎カスマグサ(かす間草)、マメ科、ソラマメ属

本州から琉球までの温暖帯に広く分布し、田畑や空地などに生える雑草です。別名は見当たりません。○名前の由来:全形は「カラスノエンドウ」と「スズメノエンドウ」に良く似ていて、「カラスノエンドウ」と「スズメノエンドウ」の間、つまり、カラスの「カ」とスズメの「ス」の間(「間」の漢字はマと読みます)で、カスマグサなのです。○花言葉:輝く心、負けず嫌い。★やや乾燥した路傍などに生育する蔓性の2年草です。茎は細く無毛、長さ30~50cmぐらい、葉は互生し3~6対の互生する小葉を持った羽状複葉で、ごく短い葉柄を持ち、小葉は「スズメノエンドウ」よりもやや大きい。花は葉腋から延びた柄の先に通常2個の淡紅紫色で小形の蝶形花を、少し離れて付けます。豆果は極めて短い小柄を持ち線状で長楕円形、長さ10~15mm、平たく無毛で滑らか、中には3~4個の種子を生じます。○「カラスノエンドウ」の名前の由来は、①カラスが食べるような小さい豌豆だから②熟した豆莢がカラスの羽根のように黒くなる、カラスの名はここから付きました。(鳥の豌豆)。

★食べれるんです! :何所でも節操なく生えて、食べられる野草としての有難味がまるでないマメ科の野草です。先端の柔かい若芽と花の部分を選んで、生のまま天ぷらにするとマメ科特有の風味がして美味しい、塩コショウで炒めてソーテーにしてもそこに食べれる。○「スズメノエンドウ」の名前の由来は、「カラスノエンドウ」に似ていて、しかも小型であるので、小鳥の「雀」の名を付けて小形を表現したものとおもわれます。また、一つの果実には二つの種子ができて、葉にも果実もけむじらで「カスマグサ」と区別が出来ます。

★撮影日:2017.5.13、★撮影場所:妻木山地区。



ウツノギ(空木)、アジサイ科ウツノギ属、妻木山地区、2017.5.20、



タネチノガスン(伝天子苔)、タニツツ子属、洞ノ原地区、2017.5.13、

★むきばんだを歩く会★

- 指導: 鷲見寛幸先生 (鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」